

病虫害発生予察注意報第 1 号

佐賀県

現在、果樹カメムシ類の予察灯での誘殺虫数が急増しており、今後、本虫が果樹園へ飛来し、被害を及ぼす恐れがあります。ついては、以下を参考に防除対策を徹底してください。

作物名：果樹全般

病虫害名：果樹カメムシ類



1. 注意報の内容

発生地域：県内全域

発生量：平年より多い

2. 注意報発令の根拠

1) 予察灯での誘殺虫数

(1) 県内 2ヶ所（佐賀市、小城市）に設置している予察灯において、8月1半旬以降に本虫の誘殺虫数が急増している（図1）。

2) ヒノキ樹での発生状況

(1) 8月17～19日に、県内12地点で行ったヒノキ樹上における寄生状況調査において、本虫の寄生成幼虫数の平均は32.4頭/5枝（平年12.7頭/5枝）であり、平年より多い。

(2) 上記と同時に行ったヒノキ毬果（きゅうか）の調査において、ヒノキ毬果1果当たりの本虫による口針鞘数の平均は14.6本/果であり、25本/果に近づいた地点が3地点認められた（図2）。

〔※ヒノキ毬果における口針鞘数が1果当たり25本を超えると、果樹カメムシ類がヒノキ毬果より離脱する傾向にあり、園地への飛来の可能性が高くなる。〕

3) 気象要因

(1) 九州北部地方の向こう1ヶ月の気象予報（福岡管区气象台8月18日発表）では、気温が平年より高いと予想され、本虫の発生に好適な条件となっている。

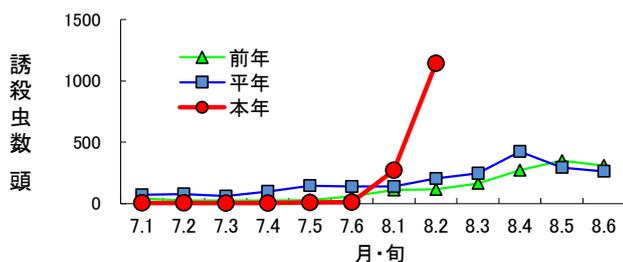


図1 予察灯での果樹カメムシ類の誘殺虫数の推移（県内2地点の平均）

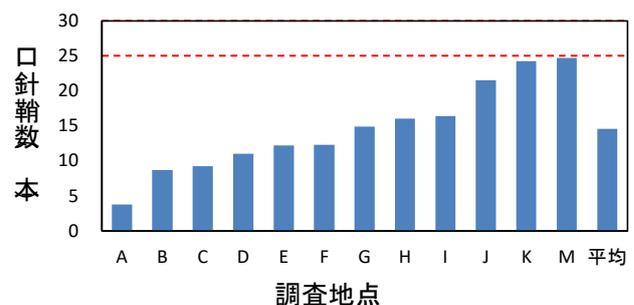


図2 地点別にみたヒノキ毬果における果樹カメムシ類の口針鞘数

3. 防除上注意すべき事項

- 1) 飛来状況は、地域、園地、園地内の場所によって異なるため、園内外をよく観察し、早期発見に努める。
- 2) 飛来が確認されたら、合成ピレスロイド系薬剤又はネオニコチノイド系薬剤で直ちに防除を行う。なお、両薬剤の残効期間は10～15日程度である。また、ネオニコチノイド系薬剤は、30～50 mm程度の降雨で防除効果が低下するため、散布後に同雨量以上の降雨があった場合は、再散布を行う。
- 3) 地域全体で一斉防除を行うと高い効果が得られる。
- 4) 施設栽培では、開口部に防虫ネット（4ミリ以下）を設置する。
- 5) 今後の発生状況については、当センターが発表する各種情報及びホームページを参考にする。
- 6) 防除対策の詳細については「佐賀県病害虫防除のてびき」を参照。

○佐賀県病害虫防除のてびき掲載アドレス

<https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321928/index.html>



連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952)45 - 8153 FAX (0952)45 - 5085

Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

